Die Eiche ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第２ワールドナーシングホーム内
電話 047-461-9111　Fax 047-461-7010

＜開会式でテープカットに臨む左から久留島浩、徳川家廣、Grütters 文化大臣、Zeppelin、Eulenburg 伯爵、Herzberg ドイツ臨時代理大使、安藤綾信の各氏＞

日本初公開の条約書原本
プロイセンと江戸幕府締結
「ドイツと日本を結ぶもの―日独修好 150 周年の歴史―」展　国立歴史民俗博物館(佐倉)で開催中

日独修好 150 年を記念して 2011 年にマンハイムで行われた両国の歴史展が企画を新たに日本で実現した。東北大震災のため同年の日本では大きなイベントの開催が難しかっただけに、その後両国の大学関係者や政府、歴博がプロジェクトを組みその後の研究の成果や資料を加えたこの展示会は「初めての本格的な日独関係史」として注目を集めている。歴博の展示は 9 月 6 日(日)までで、長崎、鳴戸、横浜各市を巡回する。

展示会開催前日の 7 月 6 日午後、開会式と「日独友好関係者の集い」、内覧会が行われた。開会式では、154 年前の条約締結などに関わった両国の子孫たちが顔を揃え、注目を集めた。当協会から宗宮好和会長、橋口昭八副会長ら 8 人が出席した。久留島浩・歴博館長は挨拶で「両国の重要な関係を考えるうえで、歴史的関係を振り返ることに意義がある」と強調した。

来賓の M.Grütters ドイツ連邦共和国首相府文化メディア担当国務大臣は両国関係を築くうえで森鴎外が果たした役割を強調し、今日 60 以上にのぼる姉妹都市と青少年交流など多彩な友好関係が実現していると述べた。大臣は「『琥珀の眼の兎』(デドマンド・ドゥ・ヴァール)の根付から興味が湧き、是非日本へ来てみたかった」と来日の喜びを語っていた。

展示会場のテープカットには、修好条約のオイレンブルク使節団が来日した当時の第 14 代将軍徳川家茂の子孫・家廣、江戸期の蘭学・医学に貢献したシーボルトの同・Brandenstein Zeppelin、Siegwald zu Eulenburg、条約の交渉に当たった時の安藤老中の同・綾信　の各氏が参列した(シーボルトの写真は Wikipedia、他は歴博の図録から引用した)。

徳川家茂

シーボルト

オイレンブルク

安藤信正

企画展示は、プロローグ・ドイツと日本を結ぶもの―修好 150 年の歴史―　Ⅰ・プロイセン及びドイツ帝国と幕末維新期の日本　Ⅱ・明治日本とドイツ　Ⅲ・両大戦下の日独関係　Ⅳ・戦後の日本とドイツ　エピローグ・宮古島から見た日独関係史で構成されている。日独両国の政府、大学、個人所蔵の貴重な展示は 201 点にのぼる。このほか、「日独交流の現在(いま)」では、友好関係にある両国の 28 都市、千葉県日独協会など日独・独日協会など交流団体のコーナーもあり、広汎な両国関係が一目でわかる仕組み。当協会は資料、写真などを提供するなどの協力をした。 (関係記事、2 面)

協会初の翻訳　完成
“祖父Ｊ・リューアスの体験”
—第一次大戦期の中国、南太平洋
そして習志野収容所—　孫の女医が著す

当協会とボトルシップ研究会が宗宮好和会長を中心にこの３月末から取り組んできた“Die Erlebnis meines Großvaters Julius Lührs 1913-1920 in China, der Südsee und Japan und über seine mehrfache Lebensrettung“(祖父ユリウス・リューアスの 1913-1920 年における中国・南太平洋・日本での体験—そして度重なる命拾いについて)の翻訳=A4 版 23 頁=が完成し、Die Eiche と同じ 8 月 8 日付けの HP(ホームページ)でアップされる。

この原稿は、欧州連合(EU)の欧州委員会が公開する電子図書館ポータルサイトのプロジェクト「ヨーロピアナ 1914–1918」に掲載されたもので、著者は医学博士の Imke Lührs(イムケ・リューアス)さん(60)=写真。

イムケさんは,1892(明治 25)年生まれの祖父が若い時船員をし、中国や日本、南太平洋など世界をいっぱい見てきたこと、何度も命拾いをしたことに関心を抱き、祖父の第一次大戦当時のライフ・ヒストリーを記録したいと思いたったのだという。

概要：ユリウスは 20 歳で軍艦グナイゼナウに乗船し、中国・青島からボルネオ、日本、シンガポール、フィリピンなど巡る。14 年 7 月、甲板作業中に転倒(落下?)し頭蓋骨骨折。その手術を受ける。１ヶ月後、第一次大戦勃発。重傷だったが「動員」のためポナペ病院に移される。戦わずして日本軍に降伏してユリウスは日本政府の汽船で日本へ。彼が乗船していた軍艦はその後、英海軍と交戦し南大西洋で沈没、598 人が死亡(187 人救出)した。

ユリウスは東京・浅草本願寺収容所を経て 1915 年 9 月 7 日に習志野収容所に到着。「兵士と将校、日本の衛兵の厨房がそれぞれあった」が、ユリウスは将校用の厨房で働いた。終戦後、彼の帰国の時期ははっきりしないが、19 年 12 月か、20 年 3 月頃。故郷リッチュへ 7 年ぶりで帰った彼は行商人を装い、母をからかい、驚かせた。ユリウスは 23 年に結婚し 3 人の子供に恵まれ、84 歳で没した。左の写真はユリウスと妻アグネス(1968 年、Imke さん提供)。

著者の Imke さんは医師として、ユリウスが持ち帰った「診療情報提供書(Arztbrief)の写しに関心を寄せて、祖父の手術を詳述しているのも注目される。原稿タイトルの「度重なる命拾い」は、頭蓋骨骨折でも助かったこと、この事故で軍艦を下船したためにその後戦闘で軍艦が沈没しても彼は死を免れたこと。これが「家族に伝わる話」だとするが、宗宮会長は「日本の収容所の医療環境を考察したうえでユリウスは医療環境に恵まれて大戦を生き延び、３度目の命拾いをした、と著者は言う」と指摘している。

Imke さんは祖父を捕虜収容所の「捕虜」ではなく「収容者」だったことを強調していることも興味深いが、収容所内の食事や東京のシーメンスなどの支援、捕虜たちの大戦を巡る情報収集についても触れている。中でも「日本での捕虜の扱いが並はずれてよかったのはどうしてだろうか」と驚きを述べ、日本が開国したとき「ドイツとオーストリアが技術と軍事、文化のお手本だった」と、その理由を述べている。

なお、この原稿の訳者は次の通り（敬称、略）
宗宮好和（監訳）：稲垣享・栗原久定・坂本宗秋・澤井秀行・杉田房之・田中正延・橋口昭八・二見理一

「日独修好 150 年の歴史」展の見どころ：◆1861 年 1 月、締結された通商条約原本。関東大震災で日本側原本が失われ、今回は唯一残るドイツ側原本で初公開。3 年後の批准書に添えられた「源家茂」の署名と「経文緯武」(文武を重んじ政治の土台とする)の印章。他の主要条約もすべて原本で展示◆幕府の遣欧使節からプロイセン国王に提出された 1862 年の信任状。黄金色の紙に金と銀箔をちりばめた豪華絢爛の国書(信任状は相手国に出すもので日本にはない。将軍には親書を書く慣習がなかったとされ、幕末史上貴重な史料)◆使節団から将軍に贈られたリトファニー・プレート。白磁板の後ろから光を当てて鑑賞する。当時のドイツ国内の都市や城、自然景観など 19 点◆使節団がドイツへ持ち帰った「源氏物語」「月王乙姫物語絵巻」が里帰り◆第一次大戦後、日本に設置されたドイツ兵の捕虜収容所の様子を示す各種資料◆ナチス台頭後の日独防共協定(1936 年)、日独伊三国同盟(1940 年)など一連の条約原本、ヒトラー総統の署名がある外交文書など（以上、企画展示代表、保谷徹・東大史料編纂所教授などによる)。
■図録(209 頁、¥1852+税)もまた、見応えある貴重な史料である。(以上、編集委)

ドイツと私

恨んだ国だったが、…

伊東　惇子

ドイツ。私にとってのそれは、良くも悪くもすべて 22 年前に逝った夫・伊東春雄の思い出と重なります。

この春、中学教諭 30 年の区切りで退職した次女に促されて、伊東の書斎や遺品などを整理しました。蔵書 1530 冊は孫娘が通う筑波大学に寄付し、手書きの原稿と一着のブレザーを残しすべて処分しました。

伊東が関わった日独スポーツ少年団の交流は 1964 年の東京オリンピックを機に芽生えました。大島謙吉先生たちが中心でした。学生時代、箱根駅伝を走った伊東でしたが、毎日新聞運動部記者になってから競技スポーツより“みんなのスポーツ”に関心を寄せ、日本にはドイツのように「地域社会をつなげるスポーツの拠点が必要」と考えていました。

日本にスポーツ少年団の活動が広がり、伊東はその機関紙の編集に加わります。1967 年の指導者交流から 1975 年にかけて少年たち 150 人ほどを家庭で受け入れ合う交流が続いたのです。伊東は毎日新聞でこのプログラムを執筆しました。訪独取材は最初こそ会社の出張でしたが、後はすべて自費でした。退職金を充てにして会社から借金していたのです。忘れもしません。私がトランクに荷物を詰めるのをしぶしぶ手伝っていると、ハイネやゲーテの詩集もありました。“いい気なものだ”。私は腹がたちました。ドイツが憎かった。伊東に勧められて私は障害児や幼稚園児の水泳教室の指導者、責任者として働き、家計を支えていましたから。彼は早期に会社を辞めてこの仕事に打ち込みます。結局退職金はないに等しかった。

日本スポーツ少年指導者協議会の会長をしていた伊東が何故か、私を訪独に誘います。バスが広い草原を走り、突然尖塔が目に入り中世都市のようなエッケンバッハに入る。マルクト広場では、私たち 30 人を迎えるドイツ人家族が待っていました。トリア、マクトオーバードルフ、コブレンツ。ゆったりとした豊かな時間が流れていました。静かに暮れていくラインの夕日を惜しみながら、ドイツ人家族たちとバーベキューとワインを楽しみ、庭の寝袋で夜を過ごしました。　西ドイツ(当時)では多くの人はスポーツフェラインという地域のスポーツクラブに入会しています。乗馬、カヌー、体操、サッカー、水泳、サイクリング、ダンス。人々はさまざまなスポーツを楽しんでいました。自前のクラブハウスでお年寄りたちが昼食とお喋りで過ごします。伊東が愛してやまないドイツがそこにあったのです。

＜トリアのガーデンパーティーと筆者＞

彼らは食事も衣服も質素です。しかし、長い冬に備えて大抵の家では、秋にお好みのワイン醸造家で一年分のワインを求め、貯蔵するのです。客のもてなしはワインと手づくりのパン。自分が選んだワインを長々と口上を添えて披露します。私がモーゼルワイン醸造家のパール・バステンと知り合ったのもこの交流でした。以来、息子のクリストフの時代になってもワインリストが毎年、送られてくるので、注文します。今年もその時期が近い。このワインは、伊東の贈り物だと思うようになりました。

千葉大のドイツ人留学生と当協会員有志との交歓会が 6 月 27 日、船橋市で開かれた。この 1 月に協会員 4 家族が女子学生を迎えて行われた初めてのホームスティをさらに有意義にするための意見交換も兼ねた。

千葉大の女子留学生とホストファミリー交えて

交歓会賑やかに

＜時間をわすれて＞

論文の提出時期が重なり留学生は Christin Wolf、Ramona Röss さんの女性 2 人だけの参加だったが、会員 15 人と爆笑連続の会合だった。

ホストファミリーを引き受けた会員の佐藤憲昭・公子夫妻、宮脇智子さん、二見理一さんに、留学生は「心温まるおもてなしでした」と感謝し、異文化の生活を堪能したと報告した。

クリス、モナさんはホームステイで体験した餅つき、神社詣で、百人一首、櫻田淳子や津軽海峡冬景色が大好きだというカラオケ、落語鑑賞、しゃぶしゃぶやお好み焼きなどの思い出を流れるような日本語で“喋りまくる”姿に、会員オーパ、オーマは「大したもんだ！」と感服しきり。

終盤は、留学生を囲んで女性たちが中央に陣取り、さながら“女子会”の趣きで大いに盛り上がっていた。　　（渡部　武弘）

協会設立 20 周年へ準備委　発足

千葉県日独協会が 1996 年 6 月に設立されてから来年で 20 周年を迎える。このため、協会運営委員会は「記念行事準備委員会」を設置、橋口昭八・副会長を委員長とし須古正恒、杉田房之、小野浩、坂本宗秋、田中正延、渡部武弘 7 人の運営委員を選んだ。7 月初めに第 1 回委員会を開き、「回顧と次世代へ」（仮題）などの基本コンセプトの策定、行事方式、具体的行事企画の立案に取り組むことになった。

行事方式としては①新春講演会に始まる年中行事に「20 周年記念」の冠を付し記念イベントとするか②秋に祝賀会を開催、講演会、音楽会、学生討論会、写真展示等を「一日」で行うなどの提案があった。記念行事としては Die Eiche100 号記念特集号の発行(16.4 月)を決め、10 周年に続き Die Eiche 総集編を発行する。ドイツ旅行は別に検討する。20 周年にふさわしいご提案を会員の皆さまにお願いします。　（橋口昭八）

書　籍

ドイツなどでシェフの修業を重ねた著者・野田浩資（ひろし）が日本の家庭で作れるドイツの味を写真付きレシピで紹介する。音楽家、著名人ゆかりの料理も。読みのものとしても面白い。里文出版、¥2000+税。

<ご寄付と、会費納入のお願い!!>

Die Eiche 6 月号で、協会の一般会計健全化と 20 周年行事のために皆さまにお願いしましたご寄付は 7 月末現在で 49 人になりました。心からお礼を申し上げます。一方、今年度の会費未納の方が 28 人いらっしゃいます。引き続き、ご寄付と会費納入をお願い申し上げます。（会長、宗宮好和）

◇これからの催し

催しもの	開催日	時間	場　所	内　容　な　ど
ビール祭り	8/29 土	16:30 ～ 19:00	「マイネクライネ」 東京都台東区寿3-3-4 Tel: 03-3845-3488	本場に負けないドイツビール、ワインと料理を楽しむ。ピアノ演奏に加えて歌が入る。会費 ¥5000 参加者最大43人。会員ははがき申込み。家族・友人は8/26(水) 8/26以降はキャンセル料発生 連絡先：須古正恒　080-1139-8554
いちかわドイツデー	10/4 日	11:00～ 17:00	ニッケコルトンプラザ・コルトン広場(市川市鬼高1-1-1)	当協会後援。「ドイツと千葉県」「協会の活動」、写真展も。 ビール、ワインなど多くの出店あり。
習志野ドイツフェア &グルメフェスタ	10/17-18 土、日	11:00～ 20:00。2日目は19:00まで/	JR津田沼駅南口公園、 モリシア	ステージイベント：アルプス音楽団など。ビール、ソーセージなど ドイツ、グルメ関係20の出店を予定。当協会の写真展も。
ドイツ語講習会 <ドイツ語でドイツの常識を学んでみませんか>	10/30 11/ 6 11/13 11/27 12/ 4	各金曜 18:10- 20:10	船橋市中央公民館 =船橋市本町2-2-5 Tel: 047-434-5551 11月は予定 12月は予定	講師：木戸芳子・東京音楽大教授(当協会理事)　教材はドイツ国籍を希望する16歳以上の外国人に実施している「国籍取得テスト」(Einbürgerungstest)を使う。会費・会員¥3500 非会員¥4000 学生¥2000(いずれも教材費込み)　申し込みはTel:047-453-6750 の坂本宗秋へ。またはinfo@jdg-chiba.com　10/26(月)まで。

◇会員の活動

アザレア　ジョイントコンサート vol.1ピアノで紡ぐファンタジー	9/6 日	14:00- 開場13:30	わたなべ音楽堂くベルネザール＞=東京都足立区中央本町4-12-5 Tel: 03-3889-1662	演奏/ シューマン：ウィーンの謝肉祭の道化Op.26(櫻井良子) シューマン：森の情景Op.82(当協会会員・土屋有里)　ラヴェル：マ・メール・ロワ、ビゼー：子どもの遊びOp.22(いずれも櫻井良子と土屋有里の連弾)　全席自由 ¥2500 (会員前売り ¥2000)
同　上	9/12 土	14:00- 開場13:30	ミレニアムセンター佐倉ホール=京成線佐倉駅北口直結 Tel: 043-483-3081	演奏/ 同　上。 全席自由 ¥1500 (会員前売り ¥1000) 申し込みはいずれもTel:090-5544-5306 Fax 043-277-3264 E-mail: yuri_tsuchiya@hotmail.com

編集後記　佐倉・歴博の歴史展の「日独友好関係者の集い」で、フォンドラン独日協会連合会長が日本は軍事力に頼らない「紛争解決能力」「外交力」を養うため、子どもに debate 教育を、と提唱していたのが興味深かった。ドイツと同様に多くの国と国境を接している中国を例に隣国との「対話」の努力を、とも。欧州の中心はドイツ、アジアは中国だ、と言っているようにも感じられた。(M.T.)